

平成25年度全国体力・運動能力調査 笠間市の結果について

《平成25年度全国体力・運動能力調査の概要》

1. 調査の目的

子供の体力等の状況に鑑み、子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

2. 調査の名称

「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

3. 調査の対象とする児童生徒

小学校第5学年および中学校第2学年

《笠間市平均と全国平均および茨城県平均との比較》

小学校

小学校では男女ともに全種目で全国平均値を上回った。特に男子の上体起こし・長座体前屈・反復横とび・50m走および女子の上体起こし・長座体前屈・50m走・立ち幅跳び・ソフトボール投げでは、それぞれの種目の都道府県別平均第1位の県の値を上回っており、高い水準にあるといえる。

また、茨城県平均と比較すると、男女ともに握力を除く全種目で県平均を上回っている。

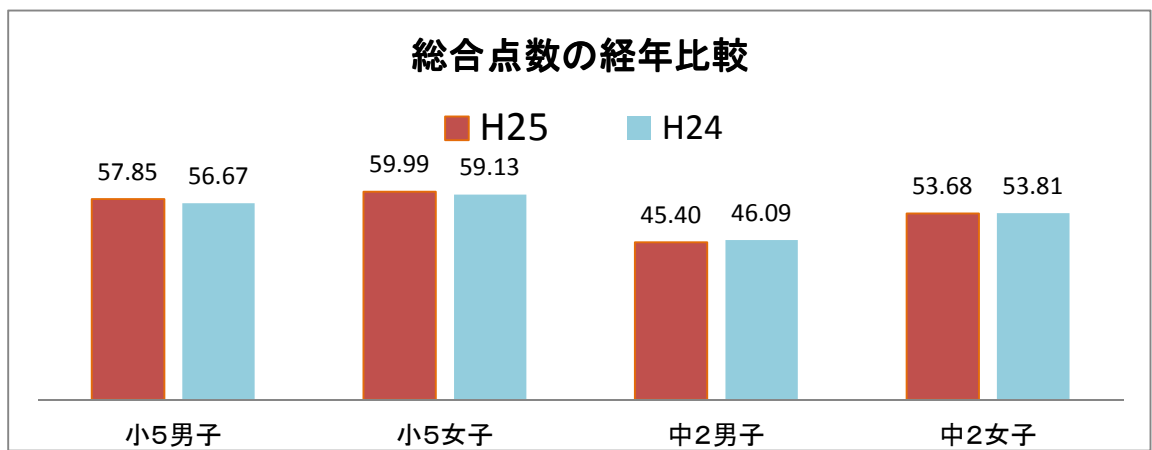
中学校

中学校では男女ともに全種目で全国平均値を上回った。特に男子の20mシャトルラン・50m走および女子の握力・反復横とび・50m走・立ち幅跳び・ソフトボール投げでは、それぞれの種目の都道府県別平均第1位の県の値を上回っており、高い水準にあるといえる。

また、茨城県平均と比較すると、男子は反復横とびが同値、長座体前屈および立ち幅跳びが県平均を下回っているが、それらを除く5種目で県平均を上回っている。女子は長座体前屈を除く全種目で茨城県平均を上回っている。

《笠間市の経年比較(総合点数)》

小学5年生男子では、平成24年調査の記録よりも1点以上高い。小学5年生女子では平成24年度調査よりもわずかに高い。中学生は、男女ともに平成24年度調査をわずかに下回った。



《笠間市の課題および取組》

小学生

男女ともに多くの種目で優れているが、握力がやや県平均を下回った。茨城県では全県的に投力アップチャレンジプランを実施し、笠間市でも全小学校において実施しているところである。また、全小学校で中休みや昼休みに何らかの運動活動を実施している。種目としてなわとびや秋から冬にかけてのランニングが多く、跳力や走力の向上に繋がっているとみられる。

中学生

長座体前屈が男女ともに茨城県平均を少し下回った。また、男子の立ち幅跳びが県平均を下回った。中学校では走力の向上に努めている学校が多く、その効果は20mシャトルランや50m走の記録に現れているが、柔軟性や跳力に対する取組も必要である。

小中学生ともに留意しなければならないのは、個々人で得手不得手があることから、自分自身で楽しみや課題を見つけ、運動する習慣を持つことが重要である。そのために、教育委員会や学校は、動機づけとなるような環境をさらに整備したり、授業の質を高めていったりすることが必要不可欠である。